

弘前市総合防災訓練へ参加し有事への心構えを！

10月3日、日差しが強い秋晴れの中、弘前市主催による令和7年度弘前市総合防災訓練が、メイン会場の弘前市総合運動公園及びサテライト会場の岩木川河川敷の水辺プラザにおいて実施されました。昨年は、同会場において、青森県総合防災訓練が実施されております。

訓練参加機関・団体は28にも及び、消防、警察、自衛隊のほか、医療、建設、ライフライン、放送など多岐にわたる真面目な訓練です。

この訓練の災害想定は、青森県西方沖を震源とするマグニチュード6.9の地震、また、前日からの局地的大雨で市内各地で様々な被害が発生、と鬼のような非常に厳しい内容です。これによる被害対応に参加機関等では、県防災ヘリコプター、防災等各種車両、様々な資機材等が用いられております。

津軽森林管理署が参加する林野火災防御訓練は、弘前地域消防団と協力しての消火活動で、発煙筒に着火し火災に見立て、消防団員は可搬式ポンプからの送水及び散水、津軽森林管理署職員はジェットシューターという消火器材による消火を行いました。

ジェットシューターというベスト型の水のうを身にまとい、ホースで連結された噴射筒で水を飛ばし火元に当てるのですが、水を入れたベストは地味に重く、手動によるポンプアクションで水を飛ばすと、これまた腕が疲れる～、だなんて山火事の時には言ってもらえません。



津軽森林管理署職員による林野火災防御訓練の様子（右写真の奥が消防団による散水）

実際の山火事では、森林管理署職員は消防隊員等の後方支援として、消火後の地表地中等の燻ぶりにトドメをさす消火活動となります。今年2月、岩手県大船渡市で発生した大規模な山林火災も、最後はやっぱりジェットシューターが活躍していたことを消防隊員から伺っております。

林野火災防御訓練も滞りなく終え、また、ボランティア受け入れ訓練など各コーナーで実施された全ての訓練も終了し、統監である弘前市長からの講評で幕を閉じました。

大規模災害は発生しないに越したことはありませんが、如何なる時に発生するか知る由もなく、資機材の点検と訓練による手順の再確認、そして、日々の心構えが、有事の際の冷静・迅速・的確な対応につながるものと信じております。



★訓練参加前に意気込みを見せる心強い津軽署職員★

総括事務管理官 高橋 昌紀